

幼児教育の評価に関する資料

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領解説等
昭和三十一年	<p>第三章 指導計画の作成とその運営</p> <p>3 指導計画の改善</p> <p>教育の理論や実際は、かぎりなく進歩する。かつ個々の教師についても、年々、進歩向上がみられるはずである。したがって指導計画も、常に進歩改善されなければならない。指導計画の改善上、特に注意しなければならないことは、次の諸点である。</p> <p>2 指導計画を実践した結果は、必ず、幼児ひとりびとりの成長に現われる。この成長の経過は、<u>幼児指導要録に記入される。この記入を契機として、平素の指導について強く反省させられる。したがって、指導要録は、単に個々の幼児の進歩の過程を記録して指導に役だてるばかりでなく、同時に、指導計画の改善にも、大いに関係をもつ資料となる。</u></p>	
昭和三十九年	<p>第3章 指導および指導計画作成上の留意事項</p> <p>一 指導上の一般的留意事項</p> <p>(十二) <u>指導の過程や成果については、たえず反省や評価を適切に行ない、その改善に努めること。</u></p>	<p>第5章 指導および指導計画作成上の留意事項</p> <p>第1節 指導上の留意事項</p> <p>(8) <u>指導の過程や成果の反省、評価</u></p> <p>指導を効果的に行うには、常にその指導の過程や成果について反省、評価し、それに基づいて指導の計画や方法を改善していく必要がある。</p> <p>指導の過程や成果を適切に反省、評価するには、<u>幼児が経験や活動をしていく過程にそって、その要点をとらえて行なう必要がある。一般に、幼児が経験や活動をするときは、経験や活動に対して強い興味や欲求をもち、活発に活動し、その活動の過程や結果において、いろいろ望ましい成果を身につける。そしてその成果を次の活動に生かして、さらに高い程度の経験や活動をしていく。ゆえに、指導の過程や成果の反省、評価の要点として、たとえば、</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画に基づいて行なう経験や活動に、幼児が強い興味や関心をもち、活動への意欲を盛り上げたか。 ・ 経験や活動が活発に楽しく進められるように導いたか。 ・ 助力や助言が適切に加えられたか。 ・ 経験や活動によって得られた成果を、いっそう確かなものにする適切な配慮やくふうがなされたか。などがあげられよう。 <p>反省、評価にあたっては、何について反省、評価をするかを明確にすることがたいせつである。一般に反省、評価は、<u>指導と幼児の経験や活動の結果とが対象となる。そして指導は、指導計画と指導の方法とに分けられよう。また、たとえば、ねらいは明確で適切であったか、ねらいが効果的に達せられたかなどの評価の観点をきめて、それについて行なうのが普通である。</u></p>

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

	<p>反省、評価するにあたって留意することは、おおよそ次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>できるだけ客観的に行なうようにする。特に幼児の心身の発達についての評価は、このことがたいせつである。幼児の心身の発達の評価は、指導しながら主として観察法によって行なわれることが多いので、ややもすれば客観性を失いがちである。また、指導についても、教師自身が評価するので主観に流れやすい傾向が多い。</u> ・ <u>いろいろな観点から、いろいろな方法を用いて評価する。</u> ・ <u>累積的に評価する。</u> ・ <u>評価のしかたや評価結果の処理を適切にする。評価は重点的に手ぎわよくやる必要があるので、その方法をじゅうぶん考えておく必要がある。また、その結果はそのつど記録しておくなどして適切に処理できるようにしておくことがたいせつである。</u> <p><u>指導と幼児の経験や活動の結果とは、ともに密接な関連をもっている。したがって、指導の過程や成果を反省、評価すればおのずから幼児の経験や活動について反省、評価したことになると言える。また、この結果は幼稚園幼児指導要録の資料ともなる。ゆえに、これらのことをじゅうぶん考慮して、能率的、効果的な反省、評価の方法をくふうして実施する必要がある。</u></p> <p>また、評価結果については正しく解釈し、それに基づいて指導を改善することがたいせつである。そのためには、たえず個々の資料を、全体的にとらえるように注意する必要がある。それは、指導の部分的な効果を反省、評価した結果を寄せ集めても、全体的な指導の効果を知ることはできにくいからである。</p> <p>※幼稚園教育指導書一般編(昭和63年)</p>
<p>平成元年</p> <p>第3章 指導計画作成上の留意事項 1 一般的な留意事項 (7) <u>幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。</u></p>	<p>第4章 指導計画 第2節 指導計画の作成 5 評価と指導計画の改善</p> <p>指導計画は、常に指導の過程について実践を通しての反省や評価を行い、改善が図られなければならない。</p> <p><u>この場合の評価は、幼児の発達を理解することと、教師の指導に対するものとの二面を合わせて行うことが大切である。特に幼児の発達の姿は教師の指導に大きく左右されるため、ねらい、内容、環境の構成、教師の直接的な援助が適切なものであったかどうかについて十分に検討し、幼児の発達が望ましい方向に向かって促されるように計画を改善していく必要がある。</u></p> <p>※幼稚園教育指導書(平成元年)</p>

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

平成
十年

第3章 指導計画作成上の留意事項

1 一般的な留意事項

(2) 指導計画作成に当たっては、次に示すところにより、具体的な

ねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにすること。

ア 具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の

発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考

慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定すること。

イ 環境は具体的なねらいを達成するために適切なものとなるよう

に構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活

動を展開しつつ必要な体験を得られるようにすること。その際、

幼児の生活する姿や発想を大切に、常にその環境が適切なもの

となるようにすること。

ウ 幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するもの

であることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動

を展開していくことができるよう必要な援助をすること。

その際、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。

第3章 指導計画

第2節 一般的な留意事項

(5) 反省・評価と指導計画の改善

幼稚園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われるものである。指導計画は、このような循環の中に位置し、常に指導の過程について実践を通して反省や評価を行い、改善が図られなければならない。

保育における反省や評価は、このような指導の過程の全体に対して行われるものである。この場合の評価は、幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である。幼児理解に関しては、幼児の生活の実態の理解が適切であったかどうか、幼児の発達の理解が適切であったかどうかなどを重視することが大切である。指導に関しては、指導計画で設定した具体的なねらいや内容が適切であったかどうか、環境の構成が適切であったかどうか、幼児の活動に沿って必要な援助が行われたかどうかなどを重視しなければならない。さらに、これらの反省や評価を生かして指導計画を改善していくことは、充実した生活をつくり出す上で重要である。

また、このような反省や評価を自分一人だけで行うことが難しい場合も少なくない。そのような場合には、他の教師などに保育や記録を見てもらい、それに基づいて話し合うことによって、自分一人では気付かなかった幼児の姿や自分の保育の課題などを多角的に評価していくことも必要である。

このようにして、教師一人一人の幼児に対する理解や指導についての考え方を深めることが大切であり、そのためには、互いの指導事例をもち寄り、話し合うなどの園内研修の充実を図ることが必要である。

※幼稚園教育要領解説(平成11年)

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

平成二十年

第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

第1 指導計画の作成に当たっての留意事項

1 一般的な留意事項

(2) 指導計画の作成に当たっては、次に示すところにより、具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにすること。

ア 具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定すること。

イ 環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにすること。その際、幼児の生活する姿や発想を大切に、常にその環境が適切なものとなるようにすること。

ウ 幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること。

その際、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。

第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

第2節 一般的な留意事項

(5) 反省・評価と指導計画の改善

幼稚園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われるものである。指導計画は、このような循環の中に位置し、常に指導の過程について実践を通して反省や評価を行い、改善が図られなければならない。

保育における反省や評価は、このような指導の過程の全体に対して行われるものである。この場合の反省や評価は幼児の発達と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である。幼児理解に関しては、幼児の生活の実態や発達の理解が適切であったかどうかなどを重視することが大切である。指導に関しては、指導計画で設定した具体的なねらいや内容が適切であったかどうか、環境の構成が適切であったかどうか、幼児の活動に沿って必要な援助が行われたかどうかなどを重視しなければならない。さらに、これらの反省や評価を生かして指導計画を改善していくことは、充実した生活をつくり出す上で重要である。

また、このような反省や評価を自分一人だけで行うことが難しい場合も少なくない。そのような場合には、他の教師などに保育や記録を見てもらい、それに基づいて話し合うことによって、自分一人では気付かなかった幼児の姿や自分の保育の課題などを多角的に反省や評価していくことも必要である。

このようにして、教師一人一人の幼児に対する理解や指導についての考え方を深めることが大切であり、そのためには、互いの指導事例をもち寄り、話し合うなどの園内研修の充実を図ることが必要である。

※幼稚園教育要領解説(平成20年)

幼稚園幼児指導要録における「指導の記録」の変遷

幼稚園教育要領	通知・通達	指導要録の様式における指導の記録	
昭和39年改訂	昭和40年2月8日「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通知)	<p>評定</p>	<p>・幼稚園教育要領第2章内容に定める各領域に示す事項に照らし、当該幼稚園において編成した教育課程に示す指導のねらいを達成していると認められるもの、おおむね達成していると認められるもの、指導のねらいからみて特に指導を要すると認められるものを3段階で評定。</p>
		<p>指導上参考となる事項</p>	<p>・幼児ひとりひとりを全体的、総合的に観察するとともに、指導のねらいを達成するための指導の過程においてみられる幼児の性格・行動、情緒の傾向、習癖、才能等について、指導上参考となる事実やその経過およびそれについての所見や処置などを具体的に記入。</p>
平成元年改訂	平成2年3月3日「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通知)	<p>発達の状況</p>	<p>・幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容に示された各領域のねらいを視点として、1年間の指導の過程を振り返り、その幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるものに○印を記入。 ・この欄における発達の状況は、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意。</p>
		<p>指導の重点等</p>	<p>・当該幼稚園の教育課程に基づく学年の指導の重点及び1年間の指導の過程において当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入。</p>
		<p>指導上参考となる事項</p>	<p>・「ねらい(発達を捉える視点)」及び「指導の重点等」に照らし、幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿について記入。その際、幼児の発達の姿は、例えば、具体的な興味や関心、遊びの傾向、生活への取り組み方等によって記述することが適当。また、指導に対する反省及び評価等を幼稚園教育の基本に照らして具体的に記入。</p>
平成10年改訂	平成12年3月8日「幼稚園幼児指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校幼稚部幼児指導要録の改善について」(通知)	<p>ねらいと発達の状況</p>	<p>・幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容に示された各領域のねらいを視点として、1年間の指導の過程を振り返り、その幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるものを記入。なお、その記入方法については、「○印」を記入する方法のほか、「記述式」とする方法など、各設置者等において創意工夫を図ること。</p>
		<p>指導の重点等</p>	<p>・当該幼稚園の教育課程に基づく学年の指導の重点及び1年間の指導の過程において当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入。</p>
		<p>指導上参考となる事項</p>	<p>・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿について記入するとともに、次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入。</p>

※上記の記載内容は、通知を踏まえ、本資料用に作成したものである。

幼稚園幼児指導要録における「指導の記録」の変遷

幼稚園教育要領	通知・通達	指導要録の様式における指導の記録	
平成20年改訂	平成21年1月28日「幼稚園幼児指導要録の改善について」(通知)	指導の重点等	<p>(1) 学年の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入。 <hr/> <p>(2) 個人の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入。
		指導上参考となる事項	<p>① 1年間の指導の過程と幼児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、<u>他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。</u> ・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿。 <p>② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入。</p>

※上記の記載内容は、通知を踏まえ、本資料用に作成したものである。

幼稚園幼児指導要録の様式の変遷

○ 昭和40年2月8日 「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通達) | 様式

I 様式(表)

幼稚園幼児指導要録

幼稚園名 および 所在地		年度 区分		昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度
年度および学年 初めの幼児の年齢		昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度
園長氏名印		学 校				
学校担任者 氏 名 印		設置番号				
学 籍 の 記 録						
幼 児	氏 名	男 女		入園年月日	昭和 年 月 日	
	本 籍	年 月 日 生		転入園年月日	昭和 年 月 日	
保 護 者	氏 名	転・退園年月日		転・退園年月日	昭和 年 月 日	
	現住所	修了年月日		修了年月日	昭和 年 月 日	
現住所		進 学 先		家庭環境 社会環境 その他特記 すべき事項		
出 欠 の 記 録				健 康 の 記 録		
区分	年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度
教育日数						
出席停止・出席等 の日数						
出席しなければ ならない日数						
欠席日数						
出席日数						
標準検査等の記録						
備 考	検査年月日		検査の名称・結果・検査者名等			

I 様式(裏)

指 導 の 記 録					
指導のねらい	評 定			指導上参考となる事項	
	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度		
健 康	健康の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	運動に興味をもち進んで行なう	— — —	— — —	— — —	
	安全の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	— — —	
社 会	個人生活の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	社会生活の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	— — —	
	社会の事象に興味や関心をもつ	— — —	— — —	— — —	
自 然	動植物を愛護し、自然に親しむ	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	自然の事象などに興味や関心をもつ	— — —	— — —	— — —	
	日常生活に適応する技術を身につける	— — —	— — —	— — —	
言 語	数量・図形などに興味や関心をもつ	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	人の話を聞いてわかる	— — —	— — —	— — —	
	自分の思うことや経験を話す	— — —	— — —	— — —	
音 楽	日常生活のことばを正しく使う	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	絵本や紙しばいなどに親しむ	— — —	— — —	— — —	
	喜んで歌ったり楽器をひいたりする	— — —	— — —	— — —	
絵 画	動きのリズムを楽しむ	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	音楽に楽しみ喜んで聞く	— — —	— — —	— — —	
	感じや考えを音や動きに表現する	— — —	— — —	— — —	
指 導 上 参 考 と なる 事 項	のびのびと絵をかいたりものを作ったりする	— — —	— — —	— — —	昭和 年度
	感じや考えをくふうして表現する	— — —	— — —	— — —	
	いろいろな材料や用具を使う	— — —	— — —	— — —	
美しいものに興味や関心をもつ	— — —	— — —	— — —		

- (注) 1. 各項目の評定は、指導のねらいを達成していると思われるもの、おおむね指導のねらいを達成していると思われるもの、指導のねらいからみて特に指導を要すると認められるもの3段階とし、その段階の順にしたがって左端から右端に○印を付して表示すること。
2. 評定は、全項目にわたって行うことを原則とするが、幼児の発達段階等により、評定の困難なものは助けて評定することができる。
3. 指導上参考となる事項については、幼児の性格・行状、情緒の傾向、習熟、才能等について、指導上特に参考となる事項および指導・処置を具体的に記入すること。

幼稚園幼児指導要録の様式の変遷

I 様式

○ 平成2年3月3日 「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通知) I 様式

幼稚園幼児指導要録(学籍の記録)

園名	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
学級				
整理番号				

幼稚園名 及び所在地	
年度及び学年初 めの幼児の年齢	平成 年度 歳 か月
園長氏名	平成 年度 歳 か月
学級担任者 氏名	

姓 氏 名	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	性別
現住所					
姓 氏 名					
現住所					
入園年月日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	入園前の 状況等
転入園年月日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	
転・退園年月日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	退学先等
転了年月日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	

幼稚園幼児指導要録(指導の記録)

氏名		性 別	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	
	指導の状況 (経過を要する点) 明るく伸び伸びと行動し楽しさを味わう 自分の体を十分に動かして、速くで運動 しようとする 遊戯、歌など生活に必要な習慣や態度 を身に付ける 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動 することの充実感を味わう 友達で遊ぶ楽しさや仲間意識 を感じようとする 社会生活における正しい習慣や態度 を身に付ける 身近な職業に興味を持ち、自然と触れ合う 中で様々な職業に興味や関心をもち 身近な職業に自分から関わり、それ を生活に取り入れたいとしようとする 身近な職業をよりよく知り、誇りを もちようとする 身の回りや身のまわりの環境などに関す る興味をもちようとする 自然の恵みや季節や環境、風土や うきむすびを味わう 人の言葉や態度などをよく聞き、自分の 感じたことや考えたことを伝えようとする 自分から話したいことや伝えたいこと をもちようとする 自分や自分の気持ちを大切にしようとする 大、自然の恵みや環境などに関す る興味をもちようとする いろいろなものの楽しみや喜びに 関心をもちようとする 感じたことや考えたことを様々な方法 で表現しようとする 生活の中でイメージを原動力にし、様々な 表現を創出しようとする								
			指導上の 事項	指導上の 事項	指導上の 事項	指導上の 事項	指導上の 事項	指導上の 事項	指導上の 事項
幼小の状況		数 別 日 数	出席 日 数	欠席 日 数	備考				

注: 現住所の欄は、転居が明らかになった場合には旧住所を記入すること。

○ 平成 12 年 3 月 8 日 「幼稚園幼児指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校幼稚園幼児指導要録の改善について」(通知) 別添資料 1 (様式の参考例)

幼稚園指導要録(学籍に関する記録)

年度 区分	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	性別
	学 歳				平成 年 月 日生	
整理番号						
幼稚園名 及び所在地	現住所					性別
	氏名					
年度及び入園 (転入園)・退園 時の幼児の年齢	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	入園 前の 状況
	歳 か月	歳 か月	歳 か月	歳 か月	歳 か月	
園 長 氏 名 印	現住所					進学 先等
	氏名					
学級担任者 氏 名 印	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	修了
	歳 か月	歳 か月	歳 か月	歳 か月	歳 か月	

(様式の参考例)

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

氏 名	平 成 年 月 日 生	性 別	発達の状況		指導の重点等	平 成 年 度	平 成 年 度	平 成 年 度	平 成 年 度
			発達の状況	指導の重点等					
健康			発達の状況	指導の重点等	(学年の重点)	(学年の重点)	(学年の重点)	(学年の重点)	(学年の重点)
康			発達の状況	指導の重点等	(個人の重点)	(個人の重点)	(個人の重点)	(個人の重点)	(個人の重点)
人間関係			発達の状況	指導の重点等					
環境			発達の状況	指導の重点等					
言葉			発達の状況	指導の重点等					
音楽			発達の状況	指導の重点等					
美術			発達の状況	指導の重点等					
現			発達の状況	指導の重点等					
出欠の状況	教育日数		発達の状況	指導の重点等					
出席日数			発達の状況	指導の重点等					
欠席日数			発達の状況	指導の重点等					

注. 発達の状況の欄は、各年の初めと比較して著しい進捗が見られたものに○印を記入すること。その際には、発達の状況は、他の幼児との比較や一定の基準に対する進捗についての評価によって返されるものではないことに留意すること。

幼稚園幼児指導要録の様式の変遷

○ 平成 21 年 1 月 28 日 「幼稚園幼児指導要録の改善について」(通知) 別添資料 1 (様式の参考例)

別添資料 1
(様式の参考例)

幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)

区分	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	
学 級								
整理番号								

幼 児	ふりがな 氏 名					性 別
	平成 年 月 日生					
	現住所					
保 護 者	ふりがな 氏 名					
	現住所					
入 園	平成 年 月 日	入園前の				
転入園	平成 年 月 日	状 況				
転・退園	平成 年 月 日	進学先等				
修 了	平成 年 月 日					
幼稚園名 及び所在地						
年度及び入園(転入園) ・進級時の幼児の年齢	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月		
園 長 氏 名 印						
学級担任者 氏 名 印						

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

(様式の参考例)

氏名	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	
性 別								
ねらい (発達を促せる視点)等								
健康								
人間関係								
環境								
言葉								
表現								
観察								
現 状								
出欠状況								
備 考								

学年の区分は、年度区分に、幼稚園に出づき品類の区別として設定したものを記入
 園長の直筆・一年間を振り返って、当該幼児の指導について行に留意してきた点を記入
 職員等による事項: (2) 次の事項について記入すること。
 ① 1 年度の指導の経緯と当該幼児の状況について以下の事項を記入すること。
 ・幼稚園教育要領第 2 章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを観点として、当該幼児の発達の実績から向上が著しいと思われるもの、
 その際、他の幼児との比較や一定の領域に対する達成度についての状況によって注されるものではないことに留意すること。
 ・幼稚園生活を通して条件が、機能的に持った状況の発達。
 ② 次の年度の指導に必要と考えられる発達事項について記入すること。
 (3) 当該幼児の状況等が向上に留意する必要がある場合等について記入すること。

幼稚園における記録の取り方の実際（幼稚園教育指導資料第5集より）

①名簿に書き込む記録

4月10日（木）

幼児名	幼児名	幼児名	幼児名	幼児名	幼児名
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

この記録は、
先生の観察
と子どもの
発言から
取り出され
ています。

	A児	B児	C児	D児	E児
4月21日（月）	寝顔してとると、もも 用のままごととコーナ ーで遊び始める。もも 用の①の作ったアイ スクリームに興味を 示し、遊ぶ。ゆり船に 戻ってからは、F・G が遊んでいたレスト ランの席にHと一緒に 座っている。何となく 一緒にいることは あるが、一緒に遊んで いるという感じでは ない。人影に興味を示 す。	アスレチックで遊ぶ。 高いところから飛び 降りようとしていた ので注意する。	積み木が他児に 使われていると、「積 木の積み木で作る 」と興味を示し、積 木を並べてぬいぐる みを動かせる。夜 半、空き箱の蓋を 開けさせる。	ままごとコーナー で折り紙を丸めた ので、草花紙の料 理の作り方を教 える。が、聞かず。 置しなかったか。	菓子箱の空き箱をつ なげて遊んで見立 て遊ぶ。ただつな げたので、もも イメージをもてる ように、一つ一つを 揉んで色を混ぜた り、タイヤを付け たりするなどの案を 提案していきたい。
4月22日（火） (略) (略) (略) (略) (略)
4月23日（水） (略) (略) (略) (略) (略)
4月24日（木）	教師と一緒に弁当を 作る。ビクニックに 行くなど、教師と関 わりが深くなる。自 分の動きをまねし たりすることを楽し んでいる。特に牛乳を 飲むという動きが 気に入っている。プ ランクの場所から中 庭に移したことで、 ももも入って一緒に 遊ぶことができた。 教師がかかりをも つことによって他 児がかかりをもつ ようになる。		ジャングルジムで ままごとをして遊ぶ。 砂場の周りを歩 く。砂場の周りを 歩く。砂場の周 りを歩く。砂場の 周りを歩く。砂場 の周りを歩く。砂 場の周りを歩く。 L・M・N。	積、意図して いたこいのぼり の作り方を教 える。ひとまず 取り組んでみる。 ①と同じように 作るのではなく、 自分なりに切 ったり貼ったり している。終わ ると、砂場で今 度も川を作りたい と意図して自分 で砂場を掘り始 める。それを見 て、E・Oも仲 良く入る。Dが 砂場に入る。D が砂場に入る。D が砂場に入る。	Dが砂場で遊び 始めたのを見て、 仲間に入れて くる。川を作る。 巧みでジャンプ をして遊ぶ。何 度も繰り返す。
4月25日（金）	①の指導でこいのぼ りを作り始める。別 の②が引を離れて、 途中の子にかか っている間に作る のをやめよう。自 分で作るの は難しかったよ うだ。			寝顔してからいつ ものレストラン 作り始める。自 分で教材から道具 を持ってきて始 めようとする。積 み木をどんどん 自分で組んでい く。	寝顔してからすぐ こいのぼりを作 り始める。
一週間を 通して	ままごととコーナ ー、教師、学生と いうことで安定 して遊んでいる。 24日のビクニッ クでは、製作物の 材料で自分なりに お弁当を作るこ とを楽しんでいた。 教師がみんなか ら見えるところ でAとかわりをも つことで周囲の 幼児もAにか わりをもつチ ャンスになっている。	Fたちと一緒に 行動することで 安定している。 新しい環境にも 慣れてきている ようで、どこに 行けば何がある かはだいたい分 かっている。ア スレチックやグ ロープジャング ル、砂場など 戸外で遊ぶこ とが多く遊び の楽しさを見 てきている。A が遊びの楽し さを見ている。	L・M・Nと一 緒にままごと やおうちご っこをしたり、 教師がしてい る遊びに興味 をもってか かわってくる。 教師の意 図を感じ取 って行動し ようとする 姿も見 られる。	前日の経験や、 楽しいと感じた ことを繰り返 したり、自分 で遊ぶ場所 を作ったりし て、出 中して遊びに 取り組んでい る。	牛乳パックをつ なげて遊んで 遊ぶことが多い。 長くつな ぐことに楽し みを感じてい る。一つ一つ の順番にこだ わらうとしてい ない。家庭でも 遊ぶ機会が 多いので、少 しずつ手 を加えなが ら楽し み方を広げ ていきたい。

幼稚園における記録の取り方の実際（幼稚園教育指導資料第5集より）

②一定の枠組みを決めて書く記録

平成23年5月13日	2年保育4歳児	記録者（ ）
「たまご？ うんち？」		
<p>事例</p> <p>教師は、子どもたちと一緒にアオムシの糞を見に行った。子どもたちが、アオムシの下に緑色の粒が落ちていたのを見付け、「これはなんだろう？」「うんちじゃ」「たまごだと思う」「くさいからうんちだよ」「くさいたまごじゃない」「緑色だからたまごだよ」と、口々に自分の考えを言い合う。うんちとたまごの意見に分かれた。「これは何だろうね。たまごかな、うんちかな」と教師もどちらか分からないという答えをする①。</p> <p>「キャベツを食べている下に落ちていたから、うんちだと思う」と見。「たまごだよ。ここから生まれて、上に登っていったんだよ」とH児。そんな話を聞かながら、しばらくアオムシを観望していた。すると、アオムシのおしりから緑色の粒がポロっと落ちた。その瞬間を、H児は見ていた。教師とH児は目を見合わせた。「今の見た？」と教師が。「うん！ おしりから、出てきた！ これは、うんちだったんだ！ 私はたまごだと思っていたけど、追ってうんちだ！」とH児が興奮気味に話した。H児は笑顔で、とてもうれしそうだった。その後も、登園するとすぐにアオムシの糞を見に行く日がしばらく続いた。</p>	<p>指導内容</p> <p>①教師が分からないという立場を取ること、なお一帯、子どもたち同士で活発な意見が交わされるのではないかと期待した。 *興味や関心や理解を深める。</p> <p>②おしりから緑色の粒が出る瞬間を見ることができた喜びと興奮を分かち合いたいという気持ちだった。 *子どもの思いに共感する。 *喜びの仲間となって楽しむ。 *体験で得たものを共有する。</p>	
<p>（4歳児5月の指導計画より一部抜粋）</p> <p>指導のねらい</p> <p>○新鮮な美しさやそよぐ風の心地よさを味わい、身の回りの自然に親しみをもってかかわり大切にしようとする。</p> <p>○友達や教師とかかわって遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>指導内容</p> <p>○存分に身体を動かそうとしたり身の回りの自然に親しみをもってかかわったり大切にしようとする。</p> <p>・草花遊びや虫探しを楽しむながら、それらに愛情をもって大切にしようとするようになる。</p> <p>指導の内容や留意点</p> <p>○戸外で存分に身体を動かして遊ぶ楽しさを共に感じながら、身の回りの自然に親しみをもってかかわろうとしたり大切にしようとするよう援助する。</p> <p>・草花や虫の命を大切に考えられるように、一緒に活動する中で先生の思いや願いを伝えたり一緒に考えたりしていく。</p> <p>・サブキやシロツメクサなど、見て楽しんだり一緒に草花遊びなどをして遊んだりしながら、この時期の自然に親しめるようにする。</p>		
<p>考察</p> <p>最初に私が「うんちだよ」と子どもたちに教えていたら、この出来事はなかったと思う。本当は、もう少しで言いそうになった。しかし、このまま子どもたちはどうしていくのだろうという思いから、このときは言わずに経過を見守ることにした。</p> <p>H児は、アオムシの下に緑色の粒が落ちていたことに気付いた。そして、粒のにおいや落ちていた場所から、自分なりの仮説を立ててたまごだと考えていた。友達やうんちだという意見を聞いても、たまごという考えは変わらなかった。緑色の粒がおしりから落ちる瞬間を見たとき、H児はそれをうんちだと認識した。自分が考えていたのとは違う答えだ。しかし、自分の考えが覆されても、H児はその瞬間が見えた事を喜び、うんちだと分かったことがうれしそうだった。</p> <p>子どもたちと、新しい発見をした感動を共有することができた。また、緑の粒の形や色を見て、その正体を「こうだから、こう思う」と推論することや、そのことを友達に伝え議論することなどを、自分たちだけでしている子どもたちの力に驚いた。</p> <p>アオムシがいたキャベツは、前年度の月組の担任や子どもたちが育てたものである。新入園児が自然に目に向くようにとの願いが込められている。私は、去年畑の作物を育てた時にはここまで考えられなかった。まだ見ぬ子どもたちの成長を願って育てることの大切さをこの事例から学んだ。</p> <p>*感じ取ること：色、形、におい、不思議。 *働きかけること：観察する、比べる、話し合う。 *見付け出すこと：生感。</p>		

③日案に書き込む記録

	10月26日（水）		10月27日（木）
前日	8:00 登園 挨拶・身支度	26日の様子より	8:00 登園 挨拶・身支度
	9:10 園庭で遊ぶ ・リレー ・なわとび ・てつぼう ・たけうま		9:10 チャレンジタイム ・なわとび ・てつぼう ・たけうま
	9:40 音楽		9:30 片付け
	9:50 好きな遊び ・割りピン人形 ・製作 （海苔船、ドールハウス、どんぐり船がし） ・園庭で遊ぶ （なわとび、てつぼう、たけうま、鬼ごび）		9:40 音楽
	11:00 片付け		9:50 好きな遊び ・割りピン人形 ・製作 （海苔船、ドールハウス） ・園庭で遊ぶ （なわとび、てつぼう、たけうま、ラインドッジボール、鬼ごび）
	11:15 ラインドッジボール		11:00 片付け
11:35 園庭準備	11:15 ラインドッジボール		
11:45 絵本「ともだちきとりや」	11:35 園庭準備		
12:00 帰園	11:45 絵本「ともだちきとりや」		
		12:00 帰園	

